

2004年10月27日 第24回研究会

発表者：宮脇淳子氏（東京外国語大学非常勤講師，COEアドバイザー）

発表題目：「17～19世紀モンゴル史料の分析 年代記と文書」

本研究会において，宮脇淳子氏は17世紀から19世紀におけるモンゴル史料の概説をおこなった。つづいて，17世紀から19世紀のモンゴル史研究に欠くことのできない一連のモンゴル語史料（『元朝秘史』他）とオイラト語の史料（『モンゴル・オイラト法典』_91頁）の解題，氏自身の研究に不可欠の清代の満洲語・漢語史料（『親征平定朔漠方略』他）とチベット語史料（『ダライ・ラマ三世伝』他）についての説明，刊行されたロシア古文書史料（『ロシア・モンゴル関係史料集』他）の問題点の指摘，そしてロシア連邦タタムbスタン共和国カザン大学に所蔵されているジュンガルの系図をモンゴル年代記や清朝史料と比較して，その価値について述べた。

説明後の質疑応答でも活発な議論が交わされ，大いに実りある研究会となった。